

視覚言語によるマレーシア美術教育について

On the Study of Art Education with Visual Language in Malaysia

山口大学
Yamaguchi University

福田 隆真

Takamasa Fukuda

視覚言語によるマレーシア美術教育について

On the Study of Art Education with Visual Language in Malaysia

山口大学

Yamaguchi University

福田 隆真

Takamasa Fukuda

はじめに

美術教育の方法として写実や構成が考えられる。写実とは再現的方法を用いて対象の形態や色彩を正確に写し取る方法によるもので、構成は非再現的方法を用いて形態や色彩によって創造する方法であるといえる。こうした美術教育の方法は我が国においても近代以降、伝統的方法と西洋の美術教育の方法とを融合しながら開発されてきた。その一つに視覚言語による教育がある。

西洋文化の影響ということから考えると、多くのアジア諸国における美術教育は、伝統的美術文化と西洋文化との葛藤や融合の状況を経て独自の美術教育を確立して来ている。¹⁾こうした独自の美術教育の確立のために視覚言語による教育が美術教育の一つの方法として存在している。

視覚言語はバウハウスやヴァプテマス²⁾によって1920年代に確立された美術の体系であるが、それらはアジアの近現代の美術教育にも採り入れられ、その方法を用いて美術教育の発展を遂げて来ている。我が国の事例にも見られるように、特にデザイン教育の必要性や重要性が社会において認識される時代には、視覚言語による美術教育がいっそう重視されてきた。

本稿では具体的事例としてマレーシアを採り上げ、学校教育における視覚言語の意義と役割について考察する。マレーシアを研究の対象とした理由は、近年の経済発展が急速であり、科学技術や情報化社会への教育への対応を図っていること、そのため21世紀に入ってデザインを重視しているからである。さらには伝統文化の継承、西欧文化の影響と国民文化の形成を進めていることにも着目した。

マレーシアの例は、今後のアジア地域の美術教育にとって、ひとつのモデルとなる可能性を持つと考えられる。また、バウハウス等で開発、体系化された視覚言語が我が国をはじめアジア地域での教育の実践においてどのように活用されているかを見ることにより、独自の文化における視覚言語の意義を考察する契機になると考えられる。

以下では、マレーシアの美術教育課程、具体的な美術教育の教材、視覚言語の教育的機能を述べ、美術教育における視覚言語の意義と美術教育の役割について考察する。

1. マレーシアの美術教育課程

本章ではマレーシアの1988年と2001年の初等教育、中等教育の美術教育課程を述べ、美術教育の目的と目標を考察する。マレーシアの教育理念はその根本に「国家教育哲

学」として次のように示されている。「マレーシアにおける教育は、個人の潜在能力を全体的に発展させるための一つの試みであり、また神への信仰に基づいて、知的、精神的、感情的および身体的にバランスのとれた人間の育成を目指す一連の試みである。この試みは、知識をもち、技能を身につけ、高い倫理観をもち、責任感をもち、自己の発展を達成するための努力を行い、社会と国家の調和と繁栄に寄与するマレーシア国民を育成するものである。」³⁾神への信仰というのは、信仰の自由を保障したうえで、マレーシアの国教がイスラム教であることからこのような表現で国家教育の哲学を定めている。

こうした教育哲学の基にマレーシアの学校美術教育は初等学校（小学校に相当）と中等学校（中学校と高等学校2年を含めた5年制）でなされている。学校教育制度は修学前教育、初等教育、中等教育、後期中等教育、高等教育となっている。初等教育は6年間で小学校(Sekolah Rendah)で行われる。中等教育は下級中学校(Sekolah Menengah Rendah)3年間と上級中学校(Sekolah Menengah Tinggi)2年間で行われている。そして初等教育、中等教育において教育課程が定められ、教育実践はそれらの教育課程に基づいて統一カリキュラムとして実施されている。

マレーシアでは1988年以来、2001年に美術教育の教育課程が改訂され、教科名もPendidikan Seni（美術教育）からPendidikan Seni Visual（視覚美術教育）と変更された。改訂後も内容的な継続が見られるので、ここでは2001年以前の教育課程とそれ以降現在に至るものの両者を述べる。

1-1 初等教育美術教育課程の内容

2001年以前の初等教育においては美術教育の目的は次のように示されている。「美術教育の目的は生活の中での美術の価値や審美観に対する調和、創造性、生産性のある人間を育成し、維持すべき文化や環境にとっての基礎的な芸術性を促進することにある。」⁴⁾さらに具体的な目標としては、「①積極的、創造的そして喜びのある美術の活動に参加する。②五感を通して知覚力を鋭敏にする、③美術の要素やその使い方を理解し、使うことができる。④美術の様々な活動の中で基礎的な技能を発達させる。⑤整理、節約、安全を基にデザインをすることができる。⑥共同作業の価値や自信・責任感を促す。⑦快適な生活環境の中での美術的な雰囲気や環境を認識し理解する。⑧有益な余暇のために美術の活動に参加させる。⑨マレーシアの美術、工芸を理解する。」とされている。⁵⁾概略的に言えば美術の愛好、表現技能の育成、生活環境での美術の活用、美術文化の理解

を美術教育の目的としている。このことは近現代の美術教育の一般的な目的であり、我が国の戦後の教育課程においても同様な内容が見られる。この中で教育の方法としては、③に美術の要素とその使い方をあげている。

2001年以降の教育課程では、美術教育の目的を次のように定めている。「小学校での視覚美術教育において、児童は次のことができるようにする。①神の創造における美を尊重する。②視覚美術の活動において、活発に、批評的に、創造的に、そして楽しく関わる。③五感を通して、知覚と想像の力を鋭敏にする。④造形美術の基礎とその活用方法を知る。⑤視覚美術の様々な活動において基礎的な技能を伸ばす。⑥秩序や配慮、安全を考慮したデザインに親しむ。⑦共同作業を通して、自己への信頼、秩序、清潔、安全重視などの多様な価値を理解する。⑧マレーシアの芸術家や文化を理解する。⑨視覚美術の作品制作において技術的な用具を使う。⑩効果的な余暇活動として視覚美術の活動に関わる。」⁹⁾基本的には従前の教育課程を継続をしている。「神の創造における美」は特にイスラム教を直接指すのではなく創造主としての神をいう意味で自然美などを意味している。従前のものよりも五感を通して知覚や想像力ということを強調しており、「視覚美術」としての特徴を出している。また、造形美術の基礎を明示して、美術教育の基礎に造形要素や視覚言語による方法を示している。さらに具体的にデザインの分野を取り上げて生活環境との関わりを明らかにしているのが改訂の特徴である。

1-2 中等教育美術教育課程の内容

次に、中等教育について見てみる。1988年の中等教育の美術教育の目的は以下のように定められている。「中等教育における美術教育の意義は想像力や創造性の育成とともに、日常生活の中で美術的な環境を受け入れ、評価、理解することである。また、伝統的な工芸や美術の文化遺産に対して誇りをもつことも美術教育の重要な役割である。」⁷⁾中等教育は、我が国では中学校と高等学校2年までの教育で、自立した社会人・国民の養成という目的も含まれており、美術教育での創造性教育、生活と美術との関連、美術文化の理解、保護、継承といった教養的要素が採り入れられている。

具体的な目標としては、「①美術の基礎に関する理解と技能の発達。②技術や道具、材料の活用による視覚的能力と創造性の育成。③自然物、人工物を対象として、美の要素と構造を観察する。④美の要素を理解し制作に活かす。⑤美術作品の制作による表現することの自信と自己訓練能力を育成する。⑥自然美の評価と自然の保護に努める。⑦マレーシアの美術の特徴を理解する。⑧マレーシアの美術家、工芸家の貢献を理解する。⑨生活の余暇における美術の貢献を理解する。⑩美術と工芸の発展を科学と技術の貢献を理解する。⑪世界の文明と文化の発展における美術の貢献を理解する。⑫芸術の仕事を理解する。」とされている。⁸⁾これらは初等教育の延長として捉えることができる。美術の理解、美術文化・文化遺産の保護・愛好、表現力の育成、美術の生活環境への活用などを示している。そして、ここにおいても、美術の要素を明記し、その活用を教育方法として示している。ま

た、中等教育においては美術教育の内容構成の一つとして美術の基礎を採り上げている。

2001年以降の視覚美術教育としての教育課程では、美術教育の目標は次のように定められている。「マレーシアのこの時代の視覚文化を築くために、高い審美観と想像力、批評、創造、革新などの基準をもつことである。教育課程の内容は生徒が神への畏敬の念を高め、自然美と祖国の美術と文化遺産を理解し、国の教育哲学の理想に沿って、生徒自身、家族、社会、国家を支援することである。」⁹⁾神への畏敬の念とは創造主としての神を抽象的に示しており、イスラム教を国教としてはいるが特定のイスラム美術に限定するような内容ではない。

具体的目標としては次のように示されている。「①神の創造世界の美を理解する。②視覚美術の作品制作において文化の研究を培う。③生活における経験と実践によって視覚美術の知識、創造、発明、訓練、技能を高める。④質の高い工芸品や美術作品を創造するために、様々な技能、メディア、技術を使用する。⑤視覚美術の作品について、記述、分析、解釈、評価を行う。⑥科学、技術、そのほかの科目の学習も加えて理解する。⑦マレーシアと外国の視覚美術の歴史的発展のなかで芸術家の貢献と開拓を理解する。⑧職業の観点から視覚美術を創造する。⑨自然と生活の中での芸術的雰囲気を実現し価値を理解する。⑩民族国家形成のために芸術的真理を打ち立てる。」¹⁰⁾このように精神性、文化、生活、国家などに関わる10項目の説明を行ない、視覚美術としての特徴をより明らかにしている。表現技能についても科学技術や多様なメディアの活用を示し、情報化社会への対応を促している。

1-3 美術教育課程のまとめ

マレーシアの美術教育の教育課程は1988年と2001年に改訂を行っているが、基本的な内容には変化は少ない。その中でも美術の要素についての理解と活用は教育内容の多くを占めているといえる。2001年以前と現在の美術教育の教育課程での目的、具体的目標を見ると、初等教育も中等教育も内容的関連をもっている。また、2001年から教科名に「視覚」という言葉が付加されたのは、学校教育の教科と育成すべき人間の資質との関連から生じたことであり、美術に特定するのではなく、「視覚」に関わる広い能力、資質の形成を意味し、また、同時に情報化社会に対応するための名称変更である。¹¹⁾

2. マレーシアの美術教育の教材

前章ではマレーシアの美術教育課程の目的、目標について述べた。ここではそれらを受けて、美術教育の教育内容である教材について述べる。教育課程の実践については一般的には教科書、指導書、参考書、実際の授業によって教育課程の内容の反映を見ることができる。以下ではマレーシアの美術教育の実践を把握するために、刊行されている資料と実際の調査によって教材の考察を行う。

マレーシアにおいては美術教育の教科書の出版は未だになされていない。教育内容については教師用の資料集や民間から出版されている参考書によって実態を見ることができる。

初等教育の現段階においては、教科書、参考書は公的に刊行されていないが、教育内容は教育省の教育課程に基づいた教師用の資料に基づいて授業が実施されている。中等教育では民間による参考書が生徒用に出版されている。また、教師用指導資料も整備されている。ここでは初等教育の教師用資料集、中等教育の教師用資料集、参考書を参考にし、美術教育の教材の概要と美術の要素、視覚言語について述べる。¹²⁾なお中等教育は我が国の中学校に相当する中等教育前期を対象とする。

2-1 初等美術教育の教材

初等教育の美術教育では2001年に教育課程の改訂が実施されたが、教材に関しては大きな変更はなく、その教育内容は、①グラフィック・描画・絵画、②模様のデザイン、③工作・立体造形、④伝統的工芸の4つに分かれている。小学校の教員は教育省で監修された教師用資料集に基づいて授業実践を行っている。以下にはそれらの教材である。

- ①グラフィック・描画・絵画・・・描画、絵画、版画。
- ②模様のデザイン・・・マーブリング、吹き絵、垂らし絵、絞り染め、描画、彩色技法、モザイク、版画あるいはスタンプ、折りと切り、はじき絵、コラージュ、モンタージュ。
- ③工作・立体造形・・・簡単な工芸、折り紙、お面、タイル、人形、工作、簡単な工作、モビール、スタビール、ジオラマ。
- ④伝統的工芸・・・パティック、アニヤマン、陶芸、木彫。

こうした作品制作と伝統工芸理解の他に、作品展示、ポートフォリオ作成の教師用資料が付設されている。

初等教育の教材では、表現技法、制作技法の解説が重要視されている。教師用の資料集では、図1のように造形原理によって表現技法が説明されている。そして②の模様のデザインでは、デザインの秩序として視覚言語である、積み重ね、バランス、繰り返し、強調などの表現方法が具体的に示されている。¹³⁾また、5学年からコンピュータによる学習が促されている。

2-2 中等美術教育の教材

中等教育前期の1988年の教育課程に基づく、教育内容を参考書レベルで概観すると、視覚言語の教材が多くを占めていることが分かる。¹⁴⁾

第1学年では次のような具体的教材によって構成されている。(1)線、(2)色、(3)材質感、(4)形、(5)形態、(6)空間、(7)調和、(8)強調、(9)バランス、(10)対比、(11)運動、(12)グリッド、(13)彩色画、(14)版画、(15)彫刻、(16)ポスター、(17)パッケージデザイン、(18)パティック、(19)アニヤマン、(20)木彫、(21)製本。このように(1)から(12)までが造形原理の視覚言語の個々の内容になっているのが特徴である。図2、3では造形要素の一般的な具体例が示され、図4ではマレーシアの伝統的模様の学習に造形原理が活用されている。また、(4)の形は平面的な輪郭を持つものであり、(5)は立体的なフォルムとしての形を示しており、造形要素についても厳密に規定している。

第2学年では以下のような教材である。(1)線、(2)色、(3)材質感、(4)形、(5)形態、(6)空間、(7)調和、(8)強調、(9)バランス、(10)対比、(11)運動、(12)多様性、(13)統一、(14)グ

リッド、(15)描画、(16)彩色画、(17)版画、(18)彫刻、(19)ロゴマーク、(20)イラストレーション、(21)パティック、(22)アニヤマン、(23)木彫、(24)陶芸、(25)製本。第2学年においても第1学年と同様な教材の構造をとっており、(1)から(14)までが造形要素、視覚言語の内容となっている。

第3学年では第1学年、第2学年の造形原理の基礎的な理解のうえに教材の配置をしており、絵画、彫刻、デザイン、工芸、鑑賞といった以前の日本における学習領域に類似したまとまりをなしている。具体的には以下のような教材である。(1)描画、(2)彩色画、(3)版画、(4)コラージュ、(5)彫刻、(6)漫画、(7)カリグラフィー、(8)イラストレーション、(9)アニヤマン、(10)パティック、(11)木彫、(12)陶芸、(13)染織、(14)製本、(15)純粹美術、(16)グラフィックアート、(17)祖国の美術文化、(18)外国の美術文化。つまり(1)(2)(3)は絵画の領域であり、(4)のコラージュは造形の技法である。(6)(7)(8)は視覚伝達デザインであり(4)のコラージュは絵画にも視覚伝達デザインの領域にも重複するものである。そして(9)から(14)までは伝統的工芸の内容で(15)以降は鑑賞や美術理論の内容となっている。以上が日本の中学校に相当する2001年までのマレーシアの中等教育の前期3年間の美術の教材例である。

2001年からマレーシアでは美術教育は教科の名称を変更し、Pendidikan Seni Visual (視覚美術教育)となった。「視覚」という言葉を教科名に加えたことにより、造形要素、視覚言語の教材をより強調し、情報化社会に対応する美術教育の方法として視覚言語を位置づけている。いくつかの変更点を見ながら第1学年から概略すると次のようになっている。¹⁵⁾

第1学年：(1)線、(2)形、(3)形態、(4)材質感、(5)空間、(6)色、(7)調和、(8)対比、(9)バランス、(10)リズムと運動、(11)多様性、(12)統一、(13)描画、(14)彩色画、(15)彫刻、(16)版画、(17)グラフィックデザイン、(18)陶芸、(19)アニヤマン。

第2学年：(1)造形要素、(2)デザイン(造形)の原理、(3)デザイン(造形)の構造、(4)描画、(5)彩色画、(6)彫刻、(7)版画、(8)漫画、(9)イラストレーション、(10)アニメーション、(11)木彫、(12)刺繍、(13)独立以前の祖国の美術史、(14)伝統工芸の鑑賞、木彫と刺繍。

第3学年：(1)造形の基礎、(2)描画、(3)彩色画、(4)彫刻、(5)版画、(6)シンボル、(7)ロゴ、(8)広告、(9)パンフレット、(10)パッケージデザイン、(11)カリグラフィー、(12)パティック、(13)染織、(14)独立後の祖国の美術史、(15)伝統工芸の鑑賞、パティックと染織、(16)伝統工芸の鑑賞、道具、おもちゃ、装飾。この参考書から見ると、造形要素と造形原理による視覚言語が重視されている。第1学年と第2学年では視覚言語による学習が7割以上を占めている。そして2学年にわたって同じ題材によって系統性をもった内容によって教育されている。図5から図9は中学校2年での一つの教材であるデザインの原理の詳細である。

以上のようにマレーシアの現在までの約20年間の学校美術教育の教材では、視覚言語にかかわる内容が重視されている。それは美術の基礎として位置づけている内容とデザイン

の基礎として位置づけている内容の両者を兼ね備え、初等教育と中等教育とで内容的連携を持ちながら教育目的に適用させていると考えられる。

3. 我が国の美術教育の方法としての視覚言語の展開

前章までにマレーシアにおける美術教育の教育課程と教材における視覚言語の役割について見た。視覚言語による美術教育の展開は我が国においても明治の学制発布以来、その呼称はともかく内容的には教育方法のひとつとして実践されてきている。¹⁶⁾また、造形要素や造形原理、造形文法と呼ばれる、いわゆる視覚言語による教育方法は、視覚言語を体系化したバウハウスや造形要素による専門教育を実践したヴフテマスなどを起点として、我が国においても戦前戦後を通じて、「構成」「構成教育」「基礎造形」「ベーシックデザイン」等の呼称によって造形主義的な専門教育、普通教育に導入、展開された。

本章は、マレーシアの美術教育における視覚言語の意義を考察する前に、日本での視覚言語による美術教育の方法の主な内容を概観し、その変遷と意義について確認し、マレーシアの美術教育の考察の基盤とする。

3-1 明治期の視覚言語教育とアーサー・ダウ

明治時代の普通教育においても形象の教育、図案教育などにおいて、視覚言語にかかわる造形主義的教育が実施された。¹⁷⁾明治時代の日本の美術教育への影響の一つとしてアメリカでの視覚言語の試みと見なされるアーサー・ダウがあげられる。ダウはその著書「コンポジション」においてバウハウス以前の1913年に造形の体系化を行っている。¹⁸⁾ダウはそこにおいて、線、濃淡、色を造形要素とし、調和、対比、変換、主従、繰り返し、対象などを造形方法とした視覚言語の体系化を試みている。¹⁹⁾しかもそこには日本や東洋の材料や用具による表現方法を紹介している。この書では絵画や模様を目的とした造形方法として体系化されている。これはその後のバウハウスやヴフテマスがデザインを志向した視覚言語の体系とは異なっているが、広く造形全般を対象とした視覚言語による一つの教育方法を確立したと考えられる。

3-2 構成教育運動

バウハウスの予備課程、基礎課程の教育内容とそれらを担当したカンディンスキー、クレー、イッテンなどの芸術家の教育方法を紹介し、展開したのが昭和初期の構成教育運動である。この運動の主導者の川喜多煉七郎は構成教育の理念として次のように述べている。「構成教育とは丸や、四角や、三角をならべる事ではない。所謂構成派模様を描くことでもない。われわれの日常の生活の極くありふれた、極く卑近な事を充分とり出して見て、それを新しい目で見なほして、それを鑑賞したり、作ったりする上のコツを掴みとるところの教育、それが構成教育である。」²⁰⁾この運動は普通教育での美術教育への提言であり、日常生活を見直して造形的な要素や造形方法を学びとろうとする考え方である。内容としてはバウハウスの予備課程・基礎課程で行われていた材料体験、平面構成、色彩構成、立体構成、フォトグラムなどである。戦後のデザインの源泉となったと見なされる。

3-3 高橋正人の「構成」

戦後の我が国の美術教育のひ方法の例として、昭和30年代から、構成教育運動のデザインの概念を包含して造形の基礎教育でありデザイン教育を見据えた「構成」の教育が見られる。高橋正人によって進められ、構成を単にデザインの基礎として捉えるのではなく純粹に造形の分野として位置づけ、次のように説明している。「ここでいう構成は、Constructionのような狭い意味ではないが、広告デザインとか工業デザインとか、あるいは工芸などのような、用途をもった造形活動の全部を含むものではなく、それらに含まれている、あるいはそれらから導き出された純粹造形的要素を意味している。そのような意味のものであるから、本来は用途をもった諸種のデザインと別個に存在するものではないわけであるが、研究が次第に進むと共に、用途を持ったデザインの中に入りきらず、独自の研究領域をもつようになったのが実状である。」²¹⁾つまり構成は造形全般を対象とした純粹造形的要素を取り扱う領域としている。時代背景としてはデザインの振興の始まりであり、多様なデザインが出現してくる時期である。こうしたデザインへの展開も見据えてそれらに共通する純粹造形的要素を研究の対象としたのである。

3-4 視覚言語教育としてのベーシックデザイン

また、昭和40年代から、造形全般の基礎とデザインへの発展を含めて「ベーシックデザイン」という言葉で特に立体的な造形に対する視覚言語を体系化したのが高山正喜久である。ベーシックデザインの担う基礎造形の能力として、高山は創造性の開発、造形秩序に対する直観力の育成、造形的表現技能の三つを上げている。²²⁾そしてこれらの能力はデザインの過程で行われる造形行為を分析することで、造形全般の制作や表現の方法に関連している。

高山は創造性の開発においては、問題解決のための着想を重要視し、発想の段階においては実現性の有無にかかわらず数多くのヴァリエーションを創出し、最後の段階の構想において実現の可能性を検討することを創造のプロセスとしている。ここでの発想段階においては形態と色彩の組み合わせ、暫時変化、逆転の発想等、様々な造形的ヴァリエーションを考え出すことを重視している。実際のデザインにおいて実現可能かどうかは発想段階では関与せず、造形的多様性を求めている。そして構想段階においてデザインの実現性を加味して表現の決定を行うこととしている。つまり、発想段階までの過程は造形全般を対象として発想することでありベーシックデザインが最終的にはデザインに収斂していくものではあるが、基礎造形としての役割を充分に果たしているのである。それと同様に、造形秩序に対する直観力の育成は発想の段階での造形全般を対象とした形態、色彩の可能性を追求する段階で、審美観の育成を志向して、対比、バランス、動き、空間感、強調、統一などの視覚言語による方法を採用している。そしてそれらはある程度多数の練習を積み上げることによって審美観が形成されるとした。また、造形的表現技能の育成については、客観的伝達可能な表現技術の段階から主観的に獲得する表現技能を含めて、発想、構想の段階で制作を実践することで育成される。²³⁾このように高山は発想法を中心として美的直観力の育成と造形技術・技能の獲得をベーシックデザインの目的として、視覚言語の体系を採

用して実践した。

次に同じく、昭和40年代以降、平面的造形を中心として基礎造形の研究者、教育者として真鍋一男がいる。真鍋は構成という呼称ではなく「造形性」として造形全般の基礎を意味してその内容を次のように述べている。「造形性は純粹で直観的な抽象的形式原理の問題であり、主観的諸内容や実用的諸条件を除いた独立事象として教育が深められなければならない。みて感じる力—感覚—はみえるものから生まれてくるのではなく、教育によって育てられなくてはならないのである。」²⁴⁾このように真鍋は造形性にかかわる特性を教育に活用し、材料体験、形態の解釈と組織、構成の形式、幾何学的構成などを取り上げ、造形要素と視覚言語について数学的方法と感覚的方法を融合させている。

高山と真鍋は社会におけるデザインの振興が盛んになり、専門教育、普通教育の両者においてデザイン教育が活発になった時代に、デザインの基礎としてベーシックデザインを研究教育したが、それは普通教育の視覚言語教育にも有効であった。

3-5 再び「構成」としての研究

前述のような昭和30年代、40年代の基礎造形にかかわる教育方法の体系化により、昭和50年代では表現分野の拡大を視野に入れた視覚言語教育の試みが朝倉直巳によって実践された。朝倉は平面構成の表現を幾何学的形態を基盤としながら、光や鏡、発光装置などを取り入れ、構成の分野を造形全般の基礎研究として視覚言語の体系化を進めた。²⁵⁾朝倉は構成の内容として造形の要素の分類、組み合わせによる造形方法を提案し、数学的方法を導入し組織的な発想による造形創造の研究、教育を実践した。²⁶⁾

3-6 視覚言語教育の位置づけ

以上のように我が国における視覚言語教育を概観すると、造形全般を対象とした基礎的造形の領域としての役割と、デザインの基礎としての役割を持っている。そのことは専門教育と普通教育においても役割のバランスが変わってくる。専門教育の場合はパウハウスのように造形全般の基礎とデザインの基本との両方の役割を持っている。普通教育では美術教育の方法のひとつとして捉えられる。そして普通教育では社会的背景の変化により、教育課程が問題解決学習を重視する時代と系統的学習を重視する時代に大別される傾向にある。前述のように我が国における昭和30年代40年代においては、産業の発展がなされた。そうした社会的な背景に関連して、ベーシックデザインとしての視覚言語による教育が展開された。産業の振興、デザインの重視の社会背景においては系統的な美術教育としてデザインの基礎としての視覚言語教育が重視されている。造形そのものの特性を学習することが重要視されている。

昭和50年代以降は社会の経済成長は安定成長となり、情報化の促進、価値観の多様化による社会の急激な変化の時代となってきた。我が国の教育課程もそうした事象に対応し、ゆとりや個性が重視された。そこでは美術の教養的な意義により美術の持つ造形性に加えて、心情的、感覚的表現や理解が進められてきた。視覚言語の強調よりも心情的情緒的意義が重視されたといえる。

4. マレーシアにおける視覚言語の教育的意義

前章までにマレーシアの美術教育課程と教材について述べ、視覚言語による美術教育の内容を我が国の変遷を例にして述べてきた。ここでは、マレーシアの初等教育中等教育における美術教育と社会的背景について述べ、視覚言語による美術教育の意義について考察する。

2001年の教育課程の改訂では美術教育は視覚美術教育となり、視覚的な特性を強調してきている。そのことにより視覚伝達デザインの学習内容が増加した。そして伝統的工芸や文化については理解を深めることは改訂前と同様であるが、視覚言語の方法による工芸の造形制作を試みている。その学習内容は作品制作と美術の鑑賞と研究に分けられ、系統的に学習することが促されている。以下にこれらの内容を述べる。

4-1 視覚伝達デザインの重視

視覚伝達デザインの重視はマレーシアの社会的背景と関連していると考えられる。前回の教育課程が1988年に実施され、それ以降、1991-1995年の第6次マレーシア計画期間において経済の高度成長が始まり、実質経済成長率は8.7%となり、その後も2000年には8.9%、2001年の経済危機を脱して、2005年には5.3%と現在まで経済成長を継続している。²⁷⁾これにより個人所得も増加し、1998年の一人当たりGNPが3093\$であったものが、2005年には5017\$に増加した。こうした経済成長に関連して情報化、映像化社会も発展し、視覚を取り巻く環境が急激に変化してきた。視覚伝達デザインが日常的に氾濫し多様化してきた。そして現実のデザインにおいてはほとんどがコンピュータの使用によって実践されるようになった。そのことから初等教育中等教育の美術教育においても視覚にかかわる学習と、デザインの基礎的な内容の習得が必要となり教育内容の系統化が図られた。²⁸⁾

また、情報化社会への基盤整備が進められており、情報・通信技術産業を国際競争力を備えた一大産業とするために、2001年の第8次マレーシア計画では、労働集約型から知的集約型の知識基盤経済への移行を謳っている。²⁹⁾こうしたことから視覚伝達デザインの重視が窺え、従前の造形要素と造形原理の学習がより系統化されてきたといえる。

4-2 伝統文化の理解

美術教育の目的には文化の理解がある。マレーシアにおいても従前から実践され、2001年の改訂では国民文化の形成が強調されている。それは多民族社会での国家形成のための政策の基盤のひとつでもある。マレー系、中華系、インド系の3つの民族と文化を持ち、ブミプトラ政策によって国家の形成をなしてきた経緯から、国民文化の社会的必要性が生じてきたと考えられる。マレーシアの伝統的美術文化としての伝統工芸を理解、継承、創造していくために学校教育の美術において作品制作、研究、鑑賞の内容が採り入れられている。そしてそこに表現されている模様や構成について視覚言語による表現と理解が進められているのである。

4-3 系統的学習の促進

美術教育の学習内容の系統化は2001年以前の教育課程にも見られたが、2001年以降の視覚美術教育に変更されて特

に中等教育で造形要素、造形原理にかかわる視覚言語による系統化が進められている。前述のように造形要素、造形原理の教材が増え、学年進行によって単純なものから複雑なものへと深化し、表現の技術・技法も順次高度化を図っている。

また、鑑賞や研究の領域では分析的、体系的な学習を促して、視覚言語による分析的鑑賞や体系的な理解が進められている。例えばマレーシアの伝統文化であるパティックやアニヤマン、陶芸といった伝統工芸について、材料、形状、模様デザインの、制作技法などを体系的に整理し、比較や理解を促している。

5. まとめ・美術教育の役割

前章ではマレーシアの美術教育における視覚言語の意義と現在の美術教育の特徴について述べた。マレーシアは多民族多文化社会であり、その状況で国民文化を形成している。美術教育もその一環である。初等中等教育での美術教育は教養的要素としての造形要素、造形原理の理解、視覚言語による美術表現と美術の理解が進められている。情報化、映像化社会と経済成長によるデザインの振興がそれらの背景にあると考えられる。

こうした状況における美術教育の役割として、イブラヒム・ハッサンは21世紀社会での視覚美術教育の貢献を述べている。それは、日常生活と教育の関連から、教育による、基礎的知識、生涯学習、共生、経済、技術、批評と創造、慣習と文化、モラル、市民性を挙げ、美術教育が創造力と革新性を高めることを提唱している。³⁰⁾そしてデザインの重要性を強調している。マレーシアの工業製品の輸出品目では陶芸と木工がその多数を占めていることから、それらの質の向上のためにデザインの重視を述べ、そしてそのために日常生活における審美観を重視した文化を形成する能力の育成を提案している。³¹⁾具体的には国際的視野を見据えたマレーシア独自のデザインの育成であり、美術を理解する能力の向上である。³²⁾

このことは我が国の昭和40年代以降のデザインの振興と美術教育における視覚言語との関係に類似している。国際的に通用する国際様式としてのデザインの表現に地域の独自性を加味することは、ポストモダン以降試みられてきた。我が国の美術と美術教育において伝統文化やジャポニズムが重視されてきているのも類似した現象である。特にデザインの領域では国際性の中に独自性を反映させようとしている。

同様に考えれば、マレーシアにおいて国民文化の形成という独自性が国際様式としてのデザインの育成に生かされようとしている。国際様式に通じる造形要素、造形原理の教育と伝統文化である伝統的工芸の教育に視覚言語による方法を用いることで、マレーシア独自のデザインの表現と文化の理解を促そうとしていると考えられる。

また、視覚言語の教育は、初等教育での造形全般を対象とする造形原理としての教育的意義と、中等教育でのデザインの基礎としての意義、そして視覚言語による文化理解のための意義など、多様な役割と意義を有している。初等中等教育は基本的に教養教育ではあるが、社会的背景が情報化やデザインの振興を志向していることから、視覚美術教育では視覚

言語による教育に多様な位置づけが必要となっていると考えられる。

美術教育の目的は美術文化の継承と創造にあり、その目的のために、各々の国と地域で具体的目標を定めて教育を実践している。それがどのように多様であっても、色と形の造形要素と造形原理、それらを司る視覚言語はある程度共通に存在し、それに加えて個人を含んだ地域や伝統が担う独自性と多様性を有しているのである。このことは我が国をはじめとするアジアの国や地域の美術教育が、国際化すると同時に、独自性をもって展開される有効な方法となると考えられる。

注

- 1 例えば美術教育の進んでいると見做されるシンガポールにおいては、2000年までの教育課程では造形要素と視覚言語による表現方法を重視し美術教育の基礎作りをなした。その後、創造性の育成という観点から視覚言語を基盤とする統合的な教育方法をとっている。(拙稿、「創造性育成に向かうシンガポール中等美術科教育」、日本教科教育学会誌第28巻第1号、2005)
- 2 拙稿、「バウハウスとヴフテマス」、山口大学教育学部研究論叢第39巻第3部、1990
- 3 *Education Guide Malaysia*, Fourth Edition, Challenger Concept, 1997, p.2
- 4 Kementerian Pelajaran Malaysia, *Sukatan Pelajaran Sekolah Rendah, Pendidikan Seni* 1994, pp1-2
- 5 同上
- 6 Kementerian Pendidikan Malaysia, *Kurikulum Bersepadu Sekolah Rendah, Huraian Sukatan Pelajaran Pendidikan Seni Visual*, Pusat Perkembangan Kurikulum Kementerian Pendidikan Malaysia, 2002
- 7 Kementerian Pendidikan Malaysia, *Sukatan Pelajaran Sekolah Menengah Pendidikan Seni*, 1988
- 8 同上
- 9 Pusat Perkembangan Kurikulum Kementerian Pendidikan Malaysia, *Sukatan Pelajaran Kurikulum Bersepadu Sekolah Menengah*, 2000, p.2
- 10 前掲書 pp2-3
- 11 このことについては2000年9月の時点で、言語的資質、論理的資質、空間的視覚的資質、聴覚的音楽的資質、運動的資質、自立的資質、人間関係的資質の7つを定めていることをマレーシア教育省カリキュラム開発センターの初等教育担当官のザイジ氏より説明を受けた。その後2002年には自然環境的資質が追加された。
- 12 以下の資料を参考にした。
 - ・Kementerian Pendidikan Malaysia, *Buku Sumber Guru, Pendidikan Seni*, Kurikulum Bersepadu Sekolah Rendah, Pusat Perkembangan Kurikulum Kementerian Pendidikan Malaysia 1998
 - ・Buku Sumber Guru, *Pendidikan Seni Visual Kurikulum Bersepadu Sekolah Menengah*, 2008
- 13 Kementerian Pendidikan Malaysia, *Buku Sumber Guru, Pendidikan Seni, Kurikulum Bersepadu Sekolah Rendah*, Pusat

- Perkembangan Kurikulum Kementerian Pendidikan Malaysia 1998 また、2000年の調査訪問では、クアラルンプルのセント・ガブリエル小学校ではポスターの学習にコラージュによる方法を採用していた。
- 14 中学校の美術に関しては以下の参考書によって述べる。
 ・ Kathleen Chee, *Pendidikan Seni Tingkatan 1*, KBSM, Penerbitan Pelangi Sdn.Bhd.2000
 ・ Kathleen Chee, *Pendidikan Seni Tingkatan 2*, KBSM, Penerbitan Pelangi Sdn.Bhd.2000
 ・ Kathleen Chee, *Pendidikan Seni Tingkatan 3*, KBSM, Penerbitan Pelangi Sdn.Bhd.2000
- 15 中学校視覚美術の参考書は以下である。
 ・ Kathleen Chee, *Pendidikan Seni Visual Tingkatan 1*, KBSM, Penerbitan Pelangi Sdn.Bhd.2003
 ・ Kathleen Chee, *Pendidikan Seni Visual Tingkatan 2*, KBSM, Penerbitan Pelangi Sdn.Bhd.2004
 ・ Kathleen Chee, *Pendidikan Seni Visual Tingkatan 3*, KBSM, Penerbitan Pelangi Sdn.Bhd.2005
 また、2008年のアンパンペチャ中等学校での調査では、1, 2学年において造形要素と造形原理の学習を重視していた。
- 16 拙稿、「デザイン教育の回想」（『現代美術教育論』収録）、建帛社、1985、p.96
- 17 同上 pp101-102
- 18 Arthur Wesley Dow, “COMPOSITION” Doubleday, Page & Company, 1913
- 19 同上pp3-32
- 20 川喜多煉七郎・武井勝雄 『構成教育大系』 学校美術協会出版部、1934、p.1
- 21 高橋正人、『構成 視覚造形の基礎』、鳳山社、1968、序、および1976年の筆者の高橋正人への直接の調査による。
- 22 高山正喜久、「Basic Design-基礎の能力及び要素に関する研究」（東京教育大学教育学部紀要第15巻別冊収録）1969、pp49-50
- 23 1975年から1981年までの筆者の高山正喜久への直接の調査等によるもの。
- 24 真鍋一男、『造形の基本と実習』、美術出版社、1982、pp3-4
- 25 朝倉直巳、『ジェオメトリックアート入門』、理工学社、1975、『芸術・デザインとしての光の構成』、六耀社、1991などにまとめられている。
- 26 1975年から1980年までの筆者の朝倉直美への直接的調査に基づく。
- 27 マレーシア日本人商工会議所調査委員会、『マレーシアハンドブック2006』、マレーシア日本人商工会議所、2006、p55および外務省資料『マレーシア』による。
- 28 前述11と同様。
- 29 前掲書27
- 30 Iberahim Hassan dan Roskang Jailani, “Pendidikan Seni Visual dan Peranannya Abad Ke-21” , Mohd Johari Ab. Hamid(ed), *Pendidikan Seni Visual dan Muzik, Tanjung Malim*, Penerbiti Universiti Pendidikan Sultan Idris, 2004,

pp4-6

31 同上 pp7-13

32 2008年11月のイブラヒムへのインタビューによる。

図版出典

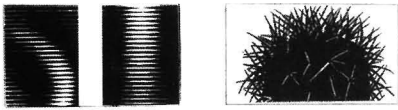
- 図1 小学校教師用資料 明暗表現 Kementerian Pendidikan Malaysia, *Buku Sumber Guru, Pendidikan Seni, Kurikulum Bersepadu Sekolah Rendah*, Pusat Perkembangan Kurikulum Kementerian Pendidikan Malaysia 1998 p9
- 図2 中学校1年 線の表現 Kathleen Chee, *Pendidikan Seni Tingkatan 1*, KBSM, Penerbitan Pelangi Sdn.Bhd.2000,p3
- 図3 中学校1年 材質感 同上 p33
- 図4 中学校1年 パティック模様 同上 p157
- 図5 中学校2年 デザインの構造 Kathleen Chee, *Pendidikan Seni Visual Tingkatan 2*, KBSM, Penerbitan Pelangi Sdn.Bhd.2004, p43
- 図6 中学校2年 デザインの原理 調和 同上 p25
- 図7 同上 強調 同上 p27
- 図8 同上 イラストと動き 同上 p31
- 図9 同上 多様性 同上 p32

参考文献

- ・ Primadi Tabrani, “*Bahasa Rupa*” Penerbit Kelir, Bandung Indonesia, 2005
- ・ Mohd Fauzi Bin Sedon @ M.Dom, “Organisasi ‘BENTUK’ dalam Seni Catan”, Mohd Johari Ab. Hamid(ed), *Pendidikan Seni Visual dan Muzik, Tanjung Malim*, Penerbiti Universiti Pendidikan Sultan Idris,2004, pp145-154
- ・ Chang Hon Woon, “*Teori Seni Visual*”, Dewan Bahasa dan Pustaka Kuala Lumpur, 2008,
- ・ 拙稿、「マレーシアの美術教育とその背景について-中等美術教育における視覚美術教育を中心にして-」、大学美術教育学会誌第39号、2007、pp.319-326
- ・ 拙稿、「マレーシア初等教育における美術の意義について」、大学美術教育学会誌第40号、2008、pp.369-376

Arah cahaya dan penghasilan bentuk melalui lukisan menggunakan garisan, titik dan jalinan

Unsur seni seperti garisan, titik dan jalinan mampu menimbulkan bentuk dengan mengambil kira arah cahaya serta kaedah pembayangan



Contoh hasil lukisan yang menghasilkan bentuk melalui penggunaan garisan, titik dan jalinan dengan mementingkan kaedah pencahayaan

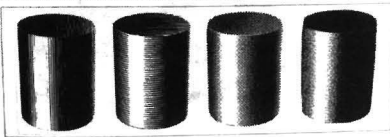


图1 小学校教師用資料 明暗表現

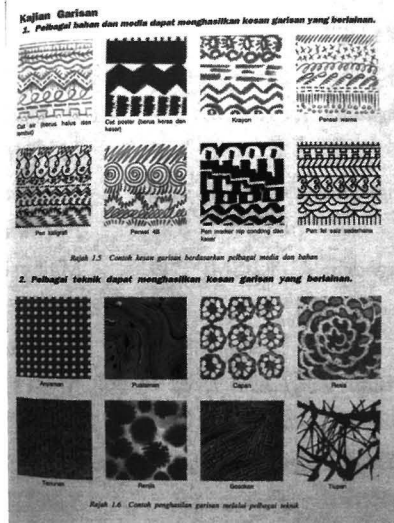


图2 中学校1年 線の表現

Contoh:

Teknik dan media	Jenis jalinan
Potang dan tampal	Senitoh
Sirendi	Tampak
Pualaman	Tampak
Lukisan dan catan	Tampak
Kedap	Senitoh
Capak	Tampak
Membauk	Tampak
Mencetak	Senitoh
Salaman	Senitoh
Mengikat	Senitoh
Ilut dan celup	Tampak
Menganyam	Senitoh

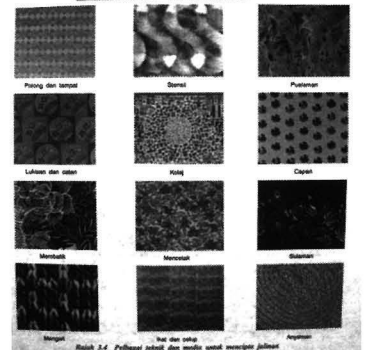


图3 中学校1年 材質感

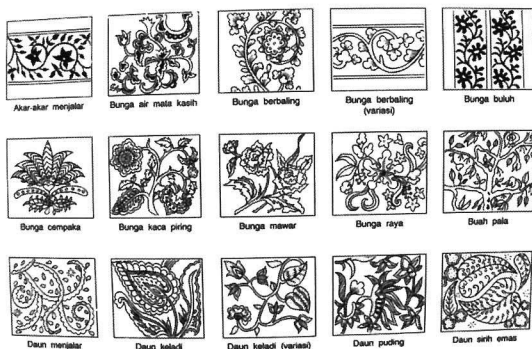


图4 中学校1年 バティック模様

Rajah 3.3 Contoh pelbagai jenis garisan grid untuk mereka cipta corak ulangan

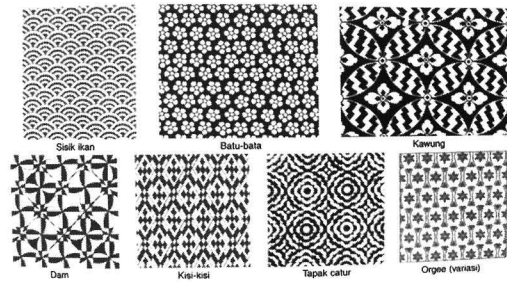
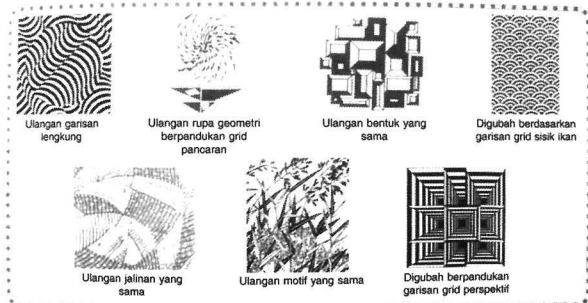


图5 中学校2年 デザインの構造



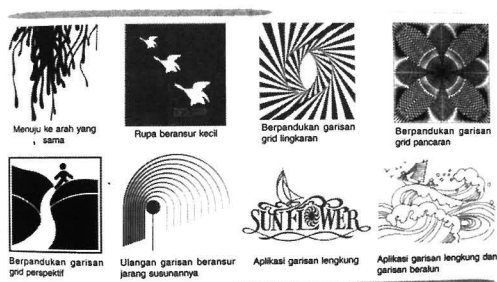
Rajah 2.1 Contoh harmoni dalam karya seni visual berdasarkan ulangan unsur seni mengikut gaya tertentu atau berpandukan garisan grid

图6 中学校2年 デザインの原理 調和



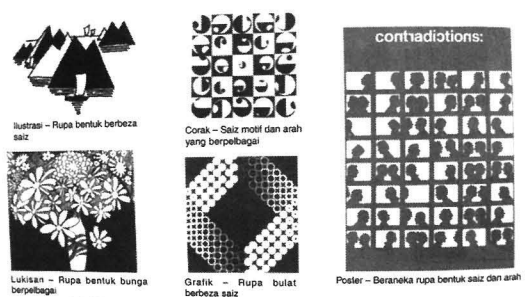
Rajah 2.4 Contoh gubahan seni visual yang mengaplikasikan prinsip rekaian pengesanan

图7 中学校2年 デザインの原理 強調



Rajah 2.11 Cara-cara menimbulkan ilusi pergerakan dalam gubahan seni visual

图8 中学校2年 デザインの原理 イラストと動き



Rajah 2.12 Contoh karya seni visual yang mengaplikasikan prinsip rekaian kepelbagaian

图9 中学校2年 デザインの原理 多様性